

競馬がますます
楽しくなる

続 ファンにやさしい

馬学講座

第47回

念仏もすっかり聞いています!? 馬の耳が果たす役割と機能①

講師

楠瀬 良さん

公益社団法人
日本養育協会の
常務理事



案内人：辻谷秋人
text by Akihito Tsujiya

馬は耳の動きで
感情を表現している

今月からのテーマは「馬の耳」である。私たち人間にとっての耳は、ほぼ100%「音を聴く器官」である。もちろん馬にとっても音を聴くのがもともと重要な役割であることは違いないのだが、ちよつと別の役割も担っている。聴覚だけでなく、そのあたりも含めた「馬の耳」の話を、ご存じ馬博士・楠瀬良さんに伺っていく。

「聴覚以外の話から始めましょう。馬の耳は、馬の感情を表します。耳を絞るのは怒りの感情や威嚇を表しますし、左右に動かしていれば周囲を探索しているか不安を感じている、正面にまっすぐ向けるのは注目しているといった具合です。また耳を垂らしていたら、その馬はリラックスしていることがわかります」人間が顔全体の表情で表す感情を、馬は耳で示すというわけだ。楠瀬さんによると、人の表情筋は顔の正面に集中している、耳には3個だけ、しかもそれも痕

跡程度にしか残っていないのだという。対して馬は耳と唇の周辺に集中していて、耳周辺には発達した表情筋が10個あり、自在に動かすことができるのだそうだ。

「耳の動きは感情を表現するために、馬同士のコミュニケーション手段になっています。社会的な序列が上位の馬が耳を絞ると、近くにあった劣位の馬は離れていきます。上位の馬が怒っている、威嚇していることを理解して、逃げ出すんです」 コミュニケーション目的で耳を動かしているわけではないのだから、結果的にコミュニケーションが成立しているというこのようだ。馬の場合「目は口ほどに」ではなく「耳は口ほどにものを用い」のである。

馬は自ら発する音で
位置や状況を判断する

さて、ではいよいよ感覚器としての耳、馬の聴覚に話を進めていこう。さきほど「馬は耳を自在に動かす」といったが、実際に馬の耳は左右が独立して、しかもほぼ全方向に動かせるように

なっている。

「左右を独立して動かすことで、音の方向や距離をより正確に把握できるのです。しかもいちばん音が大きく聞こえる方向を見つめるだけでなく、左右の耳に音が届く時間差から、音のする方角を測るといったこともしているのです」

馬が音の方向や距離をしっかりと把握していることの良い例が、自分の真後ろにいる人間を正確に蹴るという事実である。馬の視野はともかく350度ほどもあるが、逆にいえば真後ろだけは見えないことになる。その見えない人間を正確に蹴れるのは、人間の足音でその位置を判断しているからなのだ。

「馬が音を聴く能力はとても高く、反響定位もできます。反響定位とは自分の出した音、馬の場合は蹄音や鼻ラッパ（鼻を鳴らすこと）ですが、その反射音で位置や周囲の状況を特定することです。これをやる動物で有名なのはコウモリで、彼らは反響定位で障害物を避けながら飛び回り、餌を見つけていますが、それと似た能力が馬にもあるのです」

馬は反響定位でどんなことをしている

JRA



馬の感情は、耳の動きから読み取ることができる

かというところ、例えば障害を飛ぶとき。障害の向こう側が水濠なのか地面なのか、深さはどうなのかといったことが、反射音からわかるのだという。人間には想像もできないすごい能力である。その馬の高度な聴覚を利用して悪いことをしようと考えた人間が現れたりもするのだが、そのあたりの話はまた次号で。